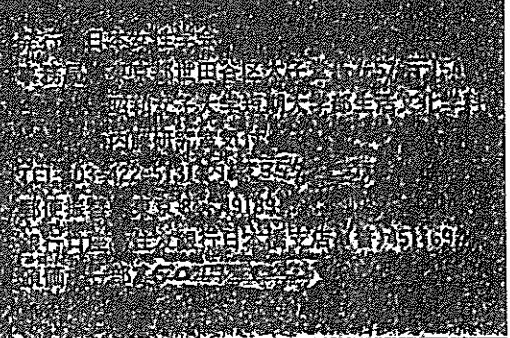


The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース 日本女性学会 第40号 1989年11月



1989年秋季大会は12月2日、3日と京都精華大学で開催する。「女性の権利と性差別」をテーマにしたシンポジウムをはじめ、個人研究発表等にも意欲的なテーマが寄せられ、充実した内容になりそうである。

また日本女性学会として、社会的に意見表明をするための課題もいくつか寄せられており、内容を討議するために臨時総会を開くことを幹事会で決定した。

大まかなプログラムは次のとおりである。4ページの大会案内を参照の上、多数の会員、非会員の参加を期待している。

[プログラム]

●12月2日(土)

シンポジウム「女性の権利と性差別」 14:00～

ソポジスト 安積純子、鈴木みどり、山口典子

コーディネーター 北沢杏子

臨時総会 17:00～

- ・放送コードへの学会としての提言について
- ・90年開催の大阪「花博」におけるミス・ユニヴァース世界大会への抗議について
- ・その他

希望者による懇親会 18:30～

●12月3日(日)

個人研究発表 10:00～12:00

- ①佐竹純子 「アパルトヘイト下の女性」
- ②函信潤子 「国連ESCAP/南太平洋女性情報ワークショップ報告」
- ③クリティン・ラマール 「中国女性；経済改革の功罪」
- ④秋山洋子 「中国——女の文学、女の思想」

ワークショップ 13:00～15:00

田嶋陽子 「男はいつ女を軽蔑し、女はいつ男を軽蔑するか？」

シンポジウム「女性の権利と性差別」

女性解放の歩みが人権確立の歴史の一環であるということは、ごく当たり前のことのように思われます。しかし私達の求める「人権」の内実は何かということは、未だ曖昧なままではないでしょうか。

シンポジストは東京から車椅子で参加される、コ・カウンセリングのカウンセラー安積純子さん、FCT=子

どものテレビの会、市民のテレビの会の設立以来、10年にわたってメディアによる人権侵害に対してアクションを続けてきた鈴木みどりさん、堺市女性団体連絡会のメンバーとして、同市議の母、山口彩子さんと共に家庭内暴力、教育、マス・メディア等多方面にわたって女性の人権を守り、確立するために活動をくりひろげている山口典子さん。

状況に対する鋭い批判と、日本のフェミニズムのこれからを考える契機として、活発な議論が期待されます。

個人研究発表・ワークショップ レジメ

アパルトヘイト下の女性

佐竹純子

アパルトヘイトには、人種と性と階級からみあった搾取・抑圧の構造が凝縮されている。そして、その搾取・抑圧を一番にかぶっているのが南アフリカ人女性である。そのアフリカ人女性の労働の実体がどうなっているか、アパルトヘイト法がアフリカ人女性にどう影響しているかを具体的に見たい。特にアパルトヘイト下での黒人女性と白人女性の関係を象徴するものとして、家事労働者の黒人女性とその雇い主の白人女性の関係に注目したい。これには、ジャクリーン・コックの「メイ・マダム」という重要な研究を紹介したり、黒人女性による文学の中にも多くでてくるアフリカ人家事労働者の姿にもふれ、最近の南アフリカ家事労働者協会の活動報告も含めたい。最後に、南アフリカ人女性に日本の女性がどうつながっていけるかということを考えていけたらと思う。

国連ESCAP/南太平洋女性情報ワークショップ報告
函信潤子

1989年11月10日～20日に、私は国連ESCAP (アジア、太平洋地域経済、社会会議)の女性情報ワークショップに参加する。開催場所は南太平洋のバヌアツという国である。1980年まで、ニュー・ヘブリデスとしてイギリス統治下にあった。南太平洋の国々の女性がどのような生活をしており、男女の関係はどのようなものかについて短期の滞在ではあるが見たところを報告したい。また国連ESCAPの女性情報ネットワークがWINAPとしていま形成され始めた。これについても広く知ら

れているとはいえない。女性の情報ネットワークが地球規模になりだしていることを、より多くの女性に知ってもらい、これをいかに女性運動に役立てていけばよいかについて、考えていきたい。

中国女性；経済改革の功罪 クリスティン・ラマール

今日の中国において女性の解放を妨げているのはどのような社会的要因があるかについて報告する。40年前新しい社会主義国家を形成したおり、男女平等、労働権の確立、そして新しい婚姻法などが保障された。しかし近年の経済政策のもとでこの男女平等の原則が危機にあるようである。特に農村に住む中国女性については、都市の女性に比べて情報も不足しているが、悪名高い「童養姥」も、一部の地方では復活（存続？）しているという。これは封建制度への復古であろうか？また10年前から進められている経済政策が雇用における女性差別を海、文盲率の女性における増加や女兒労働の事実が報告されている。さらに体制側の政策として「婦女回家（女性は家庭へ帰れ）」の方針も叫ばれている。これらの問題を検討し、今後の方向を考察したい。

中国女性——女の文学、女の思想 秋山洋子

文化大革命の終焉と経済改革は思想や文化の面での開放を伴うものだった。1970年代末から80年代にかけて、中国文学はめざましい再生をなしとげたが、その中で女性作家の活躍ぶりはすばらしかった。彼女達は、作品の量と質において男性作家にひけを取らなかつただけでなく、中華人民共和国成立以来はじめて、女の視点をはっきりと文学の中に持ち込んだ。また、これまで政治に従属するものとされてきた愛情や日常の平凡な生活の意義を見なおす点でも、女の作家たちの力は大きかった。

小説、あるいはドキュメンタリーの中で、彼女たちは家事と仕事の二重負担を告発し、人々の意識の中に根深く残る封建意識を暴きだし、これまでタブーとされてきた婚外の愛や性についても、自分の眼でみなおそうとしている。その一端を紹介したい。

「男はいつ女を軽蔑し、女はいつ男を軽蔑するか？」 田嶋陽子

女性蔑視は、男性中心社会やその文化の根本を支えています。なぜ男は女を蔑視するのか。その理由は、差別する側もされる側もよくわかっていません。今それをきちんと押さえておかないと、女たちの闘いも支柱の欠いたものになるでしょう。

ところで、いつ男は女を、女は男を、軽蔑するのか。いつ女は女を、男は男を軽蔑するのか。男による女性蔑視と女による男性蔑視はどのような関係にあるのか。今回は、[蔑視の構造]とでもいったものを日常生活の中

から探ってみたいと思います。（男女両方の出席を望みます。それぞれのパートナーや、ボーイフレンド、あるいは、まったく関係のない男性なども連れて来てくださるとおもしろい経過になるでしょう。議論は男女それぞれ別室で行なうこともあります。）

学会誌編集委員会から

学会誌一号に多数の原稿を送ってくださってありがとうございます。まだ発行予定の頁数に余裕がありますので、再募集します。事務局まで送ってください。

○締切期日 11月20日

○内容 論文 40枚まで

書評、国内・国外情報 5枚まで

○輪読用に三部提出のこと。

インフォメーション

子供の絵本の中に見える性差別、あるいは固定化された役割分担などに問題意識をお持ちのかた、ご一緒に考えあつていきませんか。

〈新入会員〉

〈住所変更〉

会員の方の大会への参加は、懇親会、昼食の予約などとともに、同封はがきにてご連絡ください。締切は整理の都合上11月25日とさせていただきます。

もちろん当日、直接のご来場も歓迎します。

現地での宿泊希望のかたは、下記リストを参考に、早めに各自で予約してください。これは関西在住会員からの格安おすすりリストです。人気があるので、とにかく早めの方がいいとのこと。

その他、4ページの大会案内は、そのままコピーして、広報にお使いください。

会員の方は、現地事務局の負担がなるべく少なくなるようにご配慮願います。

宿泊施設

京都レディースホテル（八坂神社付近）

☎075-561-3181

農林年金会館（金閣寺付近）

☎075-462-7746

平安会館（京都御所付近）

☎075-432-6181

京都私学会館（京都御所付近）

☎075-441-9161

堀川会館（二条城付近） ☎075-432-6161

弥生会館（二条駅付近） ☎075-841-8411

大学生協京都館コープイン・キョウト

（柳馬場蛸薬師上ル） ☎075-256-6600

アビカル・イン京都（松ヶ崎）

☎075-722-7711

コントロール京都（同上） ☎075-721-3111

長楽館（円山公園付近） ☎075-561-0001

京都トラベラーズ・イン（平安神宮付近）

☎075-771-0225

編・集・後・記

この40号は1989年秋季大会の情報を中心にしました。そのため中野恵美子さんの投稿文をはじめ、「連絡」「寄贈資料」「幹事会ニュース」などは次号にまわさせていただきます。ご了承ください。

いつもながら時間に追われ、でも遅れ気味になってしまい、お手元に届くのは、ギリギリでしょうか。

多くのかたの大会への参加を！！

日本女性学会 秋季大会へのご案内

シンポジウム

「女性の人権と性差別」

安積純子 (コ・カウンセラー)

鈴木みどり (FCT 子どもとテレビを考える会)

山口典子 (堺市女性団体連絡協議会事務局)

コーディネーター: 北沢杏子

12月2日(土)

●受付開始 13:30~

●シンポジウム「女性の人権と性差別」 14:00~

シンポジスト 安積純子、鈴木みどり、山口典子

コーディネーター 北沢杏子

●臨時総会 17:00~

(非会員の参加も可能)

- ・放送コードへの学会としての提言について
- ・90年開催の大阪「花博」におけるミス・ユニヴァース世界大会への抗議について
- ・その他

●希望者による懇親会(市内) 18:30~

12月3日(日)

●個人研究発表 10:00~12:00

- ①佐竹純子 「アパルトヘイト下の女性」
- ②國信潤子 「国連ESCAP/南太平洋女性情報ワークショップ報告」
- ③クリティン・ラマール 「中国女性; 経済改革の功罪」
- ④秋山洋子 「中国——女の文学、女思想」

※発表の順序や場所は当日会場でお確かめください。

●ワークショップ 13:00~15:00

田嶋陽子 「男はいつ女を軽蔑し、女はいつ男を軽蔑するか？」

[会場]

京都精華大学 春秋館(予定)

京都市左京区岩倉木野137

☎075-702-5100

[現地事務局]

①京都駅から地下鉄「北大路」下車

タクシーで京都精華大学まで約1000円

②京都駅、または四条烏丸から京都バス「岩倉木野」行
終点で下車、徒歩約10分

③京都駅、または四条烏丸から京都バス「岩倉村松」行
「幡枝」下車、徒歩約20分

④叡山電鉄「出町柳」から「鞍馬」行
「京都精華大学前」下車

[大会料]

非会員のみ、各日1000円

[その他]

・懇親会は「菊水」にて参加費約5000円

参加希望の場合ハガキにてご連絡ください。

・12月3日(日)、学食および会場付近の飲食店は休業ですので、弁当一括手配を希望する方は予約を。
または各自持参ください。

・会員の大会参加連絡ハガキの締切は整理の都合上11月25日とさせていただきます。(昼食・懇親会について)

・大会への参加は、当日会場へ直接お越し下さってもかまいません。

・宿泊は付記リストを参考にし、早めに各自でご予約ください。

リストの施設は一泊5000円程度。

・ミニコミ、書籍等の広報、販売をしたい方は、場所を提供いたしますので、直接お持ち込みください。事前に送る場合は、現地事務局(田口)へその旨を伝え、現地事務局の労力が最低限になるようご配慮ください。販売の業務や代金の回収は当事者が責任をもって行なってください。